“本日の静岡新聞夕刊「不登校対策」に思う” 2023.3.24(thu)

その記事では、不登校の原因は百人百様で、何らかの「きっかけ」で個人の抱える問題が不登校という形で表れると言います。その原因を受験勉強や部活動、人間関係に求めています。

これまで 240 名の児童生徒の不登校解消を行ってきました経験から、私は不登校の原因としている受験勉強や部活動、人間関係は、不登校の「きっかけ」だと思います。不登校の素因は、交流分析で言えば、低い感性（ＦＣ）から自分の感情を押し殺し、異常に高い順応性（ＡＣ）から周りの目が異常に気になり（低い自己肯定感)、低い父性（ＣＰ）により年齢に応じた行動＝学校に通って勉強するに、自らを導けないと判断しています。

従って、私達はカウンセリングによって父性と感性とコミュニケーション能力を高め、不登校を解消させてきました。

“「メタバース」を使った不登校支援に思う” 2023.3.22(wed)

Room-Ｋに参加する小 5 の女子児童が「(アバターで) 自分の顔が見えないので安心できる」からほぼ毎日ここで過ごすと言います。確かにあの世界のトヨタがメタバース上に“土地”を所有し、会社を構えています。メタバース上に現実の社会とは別の社会が存在しています。

しかし、自分のアバターがメタバース上の Room-Ｋを卒業し、メタバースの社会で労働し、賃金を得、生活できればいいでしょうが、現実の社会ではそれは不可能です。現実の社会では生身で人と関わる中で成長し、生きていくための技量を身に付け、生身の体で労働し、賃金を得て生活しています。

従って、そうした生活ができるように、それを阻害している心理的な素因を解消するのが不登校支援であり、そうしたカウンセリングでこれまでに 240 名の児童生徒の不登校を解消してきました。
だと思います。

“「数学不安」―「死に至る病」（岡田尊司箸）より” 2023.2.14(tus)

数学ができるかどうかには、数量処理や作動記憶といった認知能力のほかに、問題を解く際の不安が関わっている。この不安が「数学不安」である。

数学の問題を解くときには、メンタルな要素が強まる。解けると信じて、ついに正解に辿り着くためには、解けないかもしれないという「数学不安」に負けない精神的な強さや、自信が必要になる。

数学不安が強いと、解けないのではという不安や恐怖に圧倒され、肝心の問題に集中することができず、実力以下の成績しか取れない。

この数学不安は、就職や職業における成功を左右する。結果が不確定の、暗中模索の状

況において、成功を信じてやり抜くに自信に関わる。

最近の研究で、幼い頃の安着が不安定だと、数学不安が強まる傾向が、性別や年齢、ＩＱに関係なく、みられた。

もちろん、数学が得意かどうかは、数的処理や推論、空間認知、ワーキングメモリなどの能力も関係してくる。愛着の安定性が数学の成績に関与する割合は、およそ二割だという。しかし、二割違えば、試験の合否も、その後の人生も大きく変わる。

問題を間違えたからといって、叱ったり、貶（けな）したりした場合、愛着が受けるダメージによるマイナスは、教えることによって得られる学力のプラスを帳消しにしかねない。

“「恋ふらむ鳥は」（澤田瞳子著）” 2023.1.8(Sun)

明けましておめでとうございます。今年も本ページに、宜しくお付き合い下さいませ。3か月振りの書き込みです。徒然なるままに（本ページの前タイトル名ですが）書いておりますので、お許しください。

この本は、額田王を主人公とした飛鳥時代の超長編小説です。大化の改新後から壬申の乱まで描いた作品です。中学校の歴史の教科書を読み返しながら、久しぶりにどっぷり漬かってしまいました。澤田瞳子氏の歴史洞察。静岡新聞に連載した「輝山」に次いでの氏の本でした。中大兄皇子（天智天皇）、大海人皇子（天武天皇）、中臣鎌足（藤原鎌足）、大友皇子、そして、額田王の人物像。勿論、氏の見方ですが、人間味に溢れ、面白かったです。皆様も是非お読み下さい。